

平成29年度 第1回本郷新記念札幌彫刻美術館施設運営協議会
報 告 書

日 時／ 平成29年6月2日（金） 10時00分～11時20分

会 場／ 本郷新記念札幌彫刻美術館 本館研修室

出席委員／ 斎藤義晶（札幌市市民文化局文化部文化振興課長）

四釜みちこ（札幌市立大倉山小学校PTA副会長）

坪田康嗣（宮の森まちづくりセンター所長）

吉田重弘（宮の森明和会会長）

渡辺寛志（札幌市立三角山小学校校長）

國松明日香（彫刻家）

寺嶋弘道（本郷新記念札幌彫刻美術館館長）

所管課／ 工藤一也（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興担当係長）

川上園代（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興係事務職員）

事務局／ 垣内陽子（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長）

山下秀幸（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係事務職員）

山田のぞみ（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係事務職員）

次 第／ 1 開会

2 平成29年度委員紹介

3 議事

（1）平成29年度の運営方針について

（2）平成29年度事業計画について

（3）意見交換

（4）その他

4 閉会

議事内容／ 次ページ議事録参照

当日配付資料

- ・平成29年度第1回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会次第
- ・平成29年度本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会委員名簿
- ・美術館運営の基本方針
- ・平成29年度本郷新記念札幌彫刻美術館事業計画
- ・平成29年度開催事業チラシ（6種）
- ・「アフリカの仮面と彫像」新聞記事（2種）

議事録

(1) 平成29年度の運営方針について

寺嶋館長より、資料「美術館運営の基本方針」に基づき説明。

今年度は昨年の内容に資料最下段の枠囲いの4行を追加。指定管理2回目の受託にあたり掲げた方針を今年度も引き継いでいく。平成29年度は指定管理最終年度にあたり、次期応募に向けて準備を進めていく。

特に1「彫刻芸術の発信と次世代への継承」が最重要。太字にした小項目(1)～(5)は略され意識されないことが多いが、事業の実施を通して実現していきたい。

(1)の本郷新の業績の顕彰と、(2)の本郷新情報の収集と発信については、記念館で常設展示をしており、年度内には、本郷新のあゆみがわかる展示にしたい。本郷の図書、資料、新聞記事など資料コーナーを設け、情報発信力を高めたい。北海道の彫刻家のことは彫刻美術館に行けばわかるというようにしたい。(3)の子ども育成事業については財団として「子ども育成事業」を進めており、近隣の小中学校へアーティストを派遣し、児童、生徒と制作した作品を展示する「わくわく★アートスクール」を実施する。(4)の芸術の森美術館との連携と、ゆかりの作家の紹介についてはアフリカの仮面展で芸術の森美術館の収蔵作品を展示。また、家族の肖像展で北海道ゆかりの作家に光を当てる。(5)の作品の保全については、地震への備えが充分ではない。とりわけ記念館では石膏原型などを展示しているので、保存しながら展示するという問題を解決しなければならない。今後委員からの助言も賜りたいと思う。

〈吉田〉1981年以降なら耐震になっているのでは。

〈寺嶋〉耐震とは建物が壊れないことではなく建物の中の人が死なないことであり、作品を守るためには免震・減震になっている必要がある。建物は大丈夫だろうが中の作品が心配。

〈國松〉現状、石膏原型はテグスで壁に留めてあるが、一体化できるのか。

〈寺嶋〉鑑賞の妨げにならないようテグスで留めているが、安全に固定する適当な方法が見つからない。石膏原型を持っていることが当館の強みだが、それをしっかり守っていく方策を講ずる必要がある。

(2) 平成29年度事業計画について

山下事務職員より資料「平成29年度本郷新記念札幌彫刻美術館事業計画」に基づいて説明。
各委員より以下のように意見があげられた。

(3) 意見交換

〈四釜〉夏・冬休み子供向けワークショップについて、回数がもっとあればよいと思う。

自分の子供も参加したが、キャンセル待ちになったので。

〈渡辺〉「わくわく★アートスクール」は、全学年が図工の事業として取り組んだ。三角山小学校開校40周年にあたりタイムリーだった。3年生が年間を通して関わっており、子供たちも親御さんも、いろんな形で自然に関われるので、学校としても推進していきたい。

- 〈吉田〉 サンクスデーは地域の人の方が来ていない。いかに周りの人を来させるか。彫刻美術館はいつでも同じような作品が置いてあり、リピーターの確保が難しい。それでも町内会の回覧板がよく回ってくるようになった。
- 〈寺嶋〉 友の会にとっても地域の人にとっても、身近すぎて足が向かない。昨年まで友の会会員があまり来なかった。友の会をはじめ市民が見たい、したいことを実現するのが美術館の運営であり、そういった取り組みを進めていきたい。
- 〈國松〉 友の会との関係は改善してきている。連続講座でも集客の協力をしてくれている。近代美術館と協力会のようにもっと美術館と連携できないか。
- 〈寺嶋〉 友の会は日常活動を熱心に行っているのでも、ウェルカムトークのように市民へのサービスを館内でできないかと投げかけている。友の会が主体的に活動していることが何よりよい。美術館と一緒にやっていけるように取り組んでいきたい。
- 〈坪田〉 ギャラリートークを聞いた。トークを聞くと作品の背景も聞けてためになった。トークは回数・時間が限られているので、それ以外にもわかりやすく深いものが伝えられる手段や機会があればよい。
- 〈寺嶋〉 今回のアフリカ展は、純粹美術と違う視点で、今まで足が向かなかった人にも向けていただけたかと思う。
- 〈國松〉 ピカソ、モジリアーニ等の西洋現代作家は、アフリカ美術から強い影響を受けている。それがわかる資料などがあるとよかった。
- 〈寺嶋〉 ギャラリートークの中では、写真を見せながら 20 世紀美術に与えた影響なども紹介した。アフリカ彫刻コレクターを主人公にした漫画を展示するなど、ここでしかできない、もっと視点の持ちようがあったのではとも思う。
20 世紀との関連の部分ももう少し伝えることができればと思っている。
- 〈渡辺〉 ミニ児童会館の子どもたちが新聞に出たが効果はあるか。
- 〈寺嶋〉 効果は確実に出てくる。即効性はテレビにはかなわないが。先週、日曜美術館でアフリカ展が紹介されたら、すぐ問い合わせがきた。やはりマスコミの力は大きい。
来週土曜日、6 月 10 日に札幌彫刻賞の審査がある。一次審査を通った 7 人の作家はいずれも力があるので、二次審査のマケットを美術館で展示することになっている。審査当日には選考委員によるフォーラムも開催し、彫刻についての理解を深めてもらえるよう考えている。
- 〈斎藤〉 本郷新彫刻賞からリニューアルした 2 回目でもあるので、ぜひいい形にしていきたい。1 回目の作品はチカホの入口手前に展示中。市民の皆さんの目に触れるところであり、こういう形で市民に見てもらえることは大切だと思う。
- 〈國松〉 講評会を動画に撮ってインターネットで流したりできないか。そうすることにより一般公開している意味が広がり、本州の作家にも紹介できる。
- 〈寺嶋〉 動画を配信することは技術的にはできる。難しいのは、そこでは彫刻の良さは伝えられないということだ。やはり美術館に来てもらわないとなかなか伝わらない。
- 〈國松〉 札幌市では、鑑賞する施設が郊外に散っている。都心に新しく交流プラザができるので、そこに行った人がいろいろな情報を得て、各施設に足を運べるしくみができるとうい。
- 〈斎藤〉 今造っているのは劇場部分だが、アートセンターという施設をどういうふうにしていくか、何ができるか、これから財団とも検討していく。

〈寺嶋〉街中にできるいいスペースになる。展覧会ができる貸し出しのスペースや図書館もあり、市内の施設と連携したプログラムができるとよい。市民の創作活動と情報発信にも対応できる施設運営になればよいと考えている。

〈國松〉この美術館でも、ミニコンサートなどをして音楽好きを引き込むことによって、展覧会に足を運んでもらうような企画がもっとあるとよいのだが。

〈吉田〉コンサートはまちづくりセンター、町内会の事業としてこの美術館でやったことはある。札幌はシティジャズなどもしているので、連携などできるとよい。

〈寺嶋〉いろいろな工夫やアイデアはあると思うので、引き続き考えていきたいと思う。

(4) その他

次回開催 平成29年9月1日(金) 10時～11時